

三 確 かな 学 力 の 定 着 と 向 上	(1) 楽しく、わかる授業の充実	・ 楽しく、わかる授業に取り組む。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	B	◇ 教員は10割だが、生徒は8割を下回っている。教員は、ICTを積極的に活用したり、学習形態（ペア・グループ）を工夫したりして、授業改善に取り組んでいる。	教職員10	A	100%	33%	67%	0%	0%		
				◆ 生徒が授業が楽しいと感じることができ、さらにしっかりと理解できたと感じる授業を目指して、今後も授業改善に努める必要がある。しかし、楽しいことばかりの授業では、学習内容の定着は難しいと思われるので、そのバランスを大切にしていきたい。	生徒7	B	76%	25%	51%	24%	0%		
				保護者9	B	73%	7%	66%	20%	7%			
			B	◇ 各教科担任が授業の工夫を講じているものの、各テストでの平均正答率が中間期よりも低下している教科がある。その結果を受けて、全体の肯定率も下がっているものと考えられる。	教職員11	A	100%	11%	89%	0%	0%		
				◆ 生徒の実態に応じたきめ細かな指導を継続して行う。また、既習内容が確実に身に付くように復習の場をより多く設定し、積み残しがない状態で次学年につなげたい。	生徒7	A	93%	17%	76%	7%	0%		
				保護者9	B	67%	8%	59%	29%	4%			
	(2) 問題解決的な学習の充実	・ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業に取り組む。 ※ 教職員・生徒の8割が肯定	A	◇ 全校で行うSDタイムや各教科での話し合い活動を通して、主体的・対話的で深い学びを意識した授業につながった。これらの取組から、自分なりの正解を導き出せる生徒が増えてきている。	教職員11	A	100%	44%	56%	0%	0%		
				◆ 少人数集団の話し合い活動では、自分の意見をしっかりと発表し合うことができるが、全体の場では積極的に発言できない生徒が多いので、発表しやすい雰囲気づくりや積極的な態度を育成する工夫をしていきたい。	生徒8	B	79%	49%	30%	18%	3%		
			A	◇ 各教科で「対話」を意識して授業展開してる。その結果、生徒の肯定率が中間期よりも高くなったのではないかと考える。また、正解のない答えを生み出そうとする取組も結果につながったと考えられる。	教職員12	A	100%	11%	89%	0%	0%		
				◆ 未だに、全体の場では積極的に発言できない生徒が多いのが課題である。安心して発言できる風土づくりに取り組んだり、意識改革に取り組んだりしていきたい。	生徒8	A	94%	44%	50%	6%	0%		
			(3) 教育のデジタル化の推進	・ コンピュータを活用し、個々に応じた学習に取り組む。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	A	◇ 教職員の10割、生徒の8割以上が肯定しているためA評価である。デジタル教科書やCANVA等、複数のツールを活用したり、EILSやドリルパークを活用するなど、学習用端末を最大限に活用している。	教職員12	A	100%	22%	78%	0%	0%
						◆ 今後もICT機器を有効活用していき、学習用端末の活用が、学力の向上や学習習慣の確立に結び付くように工夫していきたい。	生徒9	A	82%	49%	33%	11%	7%
	A	◇ 教職員からは「生徒の学力差は大きくなるばかりで、個別の対応が必要になっている」という深刻な懸念が示されており、一律の授業だけでは対応が困難になっている現状が伺える。			保護者10	A	86%	20%	66%	15%	0%		
		◆ ICT機器の効果的な活用方法について、教員間で情報交換してレベルアップしたい。			教職員13	A	89%	33%	56%	11%	0%		
	(4) 家庭学習習慣の定着	・ 家庭学習1日90分（宿題や塾の時間も含む）の習慣が身に付いている。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	B	◇ 家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が少なからず存在する。また、各教科の宿題やそれぞれの学年で実施している自主学習ノートなどを毎日提出できていない生徒もあり、学習意欲等について差があることが伺える。	生徒9	A	90%	57%	33%	6%	4%		
				◆ 各定期テストへの計画的な取組や毎日の宿題や自主学習の取組の重要性が伝わるような工夫をしていきたい。学習委員会からの啓発活動や各学年に応じた学習内容についての指導、個別指導を充実させていきたい。	保護者10	A	88%	14%	74%	12%	0%		
			B	◇ 下校時刻が早くなったにもかかわらず、中間期と同じような取り組み方であったり、課題等の提出ができなかったりする生徒に対して、教職員や保護者が心配や不安を抱いていることが伺える。	教職員13	B	56%	0%	56%	44%	0%		
				◆ 家庭でどのような学習（学習の仕方）をすれば学力を向上させることができるのか、教師がしっかりと説明したい。またICT機器を活用し、生徒が家庭学習を通して理解を深めることができる環境を提供したい。	生徒10	B	65%	30%	35%	25%	10%		
			(5) 図書館機能の活性化	・ 各教科等の学習や様々な活動の場面において、図書室の活用に努める。 ※ 教職員・生徒の8割が肯定	B	◇ 一人一台端末で調べものができるようになり、本を用いた調べ学習や本から情報を得る機会が減少している。	保護者11	B	66%	10%	56%	29%	7%
						◆ 図書室にある本の周知を行うほか、各教科で使用することができる図書を増やしていきたい。また、購入希望図書についても随時募集したり、本の魅力を紹介したりして図書室の充実を図りたい。	教職員14	C	45%	0%	45%	44%	11%
	B	◇ 10月以降に司書支援非常勤講師が配属され図書室運営は変わったが、アンケートの質問内容が「授業や様々な場面で図書室を使っているか」であるため、数値が低いままとなっている。			生徒10	B	71%	19%	52%	26%	3%		
		◆ ICTの利活用だけに目を向けるのではなく、活字から得ることの良さや良書に触れることの良さについて理解を深めていく必要がある。			保護者11	B	55%	18%	37%	33%	12%		
	(6) 教職員の資質・教科指導力の向上	・ 資質や指導力を高めるために研修や自己研鑽に努める。 ※ 教職員の8割が肯定	A	◇ 教員の8割が肯定しているため、A評価とした。日々の研修に意欲的に励み、自己研鑽に努めている。	教職員14	B	67%	0%	67%	33%	0%		
				◆ 今後、校内研修において、一人一研究授業や新任者の研究授業等を通して、指導力の向上を学校全体として取り組む必要がある。	生徒11	B	57%	25%	32%	33%	10%		
A			◇ 積極的な研修会への参加がよき学びの機会となっている。しかし、教材研究などの自己研修を行う時間を適切に確保することが課題である。	教職員15	B	78%	11%	67%	22%	0%			
			◆ 互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気づき、答えを見付けていく方法などを活用し、高め合うことができやすい風土づくりに努めていく。	生徒11	C	41%	11%	30%	50%	9%			
A			◇ 教員の8割が肯定しているため、A評価とした。日々の研修に意欲的に励み、自己研鑽に努めている。	教職員15	A	89%	11%	78%	11%	0%			
			◆ 今後、校内研修において、一人一研究授業や新任者の研究授業等を通して、指導力の向上を学校全体として取り組む必要がある。	教職員16	A	100%	11%	89%	0%	0%			
学校運営協議会所見	前期	・家庭学習の充実は、個人差もあり難しいと思う。何事もそうだが、「なぜ～するのか」の「なぜ」の根拠となる部分をしっかりと自覚させることで「やらされる」から「やる」につながるのではないかと。 ・SD活動は、コミュニケーション能力の育成につながっていると思う。今後も継続してほしい。	学校の対応	前期	・ある学年では、自主ノートを3冊用意して、他の生徒がどのような取組をしているのかを知るために、交換自主ノートとしている。自分の番が来たら、前の人の取組についてコメントしたり、他の人のノートを参考にしたりして、自分なりに考えて取り組める工夫をしている。他の学年でも推奨していき、家庭学習の習慣化につなげていきたい。								
	後期	・家庭学習の習慣化は、親との関りが大切なのではないか。親が得た情報を学校と共有する仕組みがあるといいのでは。 ・図書室の活用は、デジタル端末の発達とともに下降気味になるのは仕方ないが、紙の良さも生徒に伝えてほしい。 ・デジタル端末を使うことが目的ではなく、どのようにしたら活用できるのか、どんな知識をえることができるのかを理解させてほしい。		後期	・学校便りや懇談会を通じて、学習習慣の定着における「親の声掛け」の好事例（環境づくりなど）を共有し、家庭でのサポートを後押しできるようにしていきたい。 ・生徒によるポップ作りや、紙の質感・レイアウトの良さを生かした図書展示を行い、五感を通じて書籍に触れる機会を増やしたい。 ・端末を使うこと自体を目的化せず、「この課題を解決するためには、どのアプリや知識が必要か」を生徒自身が判断できるような探究活動の時間を設定したい。								

四 生 き 生 き と し た 学 校 づ く り	(1) 自律性や自治的能力の育成	・ 生徒自身が方向性を決め、それをもとにみんなで協力して目標達成に努める。 ※ 教職員・生徒の8割が肯定	A	◇ 教職員は10割だが、生徒は8割をやや下回っているが全体的にはA評価とした。Sディスカッションや新入生を迎える会、ブロック結団式等々、生徒が主体となって活動する機会はあったものの、全体的には短期間での取組が多く、やや印象が薄いものとなってしまったことが課題として考えられる。	教職員16	A	100%	11%	89%	0%	0%
				◆ 後期には、運動会や文化祭など、学年の縦割り集団を中心に3年生がリーダーとなって企画・運営する場面も多くなり、それぞれの学年の役割や団結する意識を高めることでよりよい集団になると考える。そのためには、教職員が生徒一人ひとりを見守り支援していく体制づくりも必要であるとする。	生徒12	B	74%	39%	35%	19%	7%
			A	◇ 運動会や文化祭に3年生がリーダーとなって企画立案することが多くあり、生徒会役員を中心に自分たちの手で作り上げた行事にすることができた。また、学年縦割り班活動において、生徒相互がより良い集団になろうとした結果が高評価につながったと考えられる。	教職員17	A	100%	11%	89%	0%	0%
				◆ 生徒の主体性を尊重してきてすばらしい生徒集団に成長しつつあるが、教職員からは「1年生の規範意識が低いのが気になる」という今後の指導に向けた課題も明確になった。	生徒12	A	97%	43%	54%	3%	0%
	(2) 人権意識の醸成	・ いじめや差別を防ぎ、すべての教育活動において人権意識の高揚を図る。 ※ 教職員・生徒・保護者・地域住民の8割が肯定	A	◇ すべての教職員及び保護者・生徒の9割が肯定しているのでA評価とした。しかし、特定の生徒の人権意識の低い言動が見られることがある。	教職員17	A	100%	22%	78%	0%	0%
				◆ 引き続き、いじめにつながることは、毅然とした態度で対応していく。また計画的に人権学習を行うとともに、人権だより等を通じて人権意識の高揚に努めていく。	生徒2,6,8	A	91%	53%	38%	8%	1%
			A	◇ 文化祭と校区別人権・同和教育懇談会を同日開催したことについて、「内容がより充実していた」との評価があり、行事の工夫が教育効果を高めていると言える。	保護者12	A	90%	12%	78%	10%	0%
				◆ 全体的には好結果だが、一部の生徒には人権意識が希薄だったり、いじめ問題に発展してもおかしくない言動をしたりするのも事実であるため、継続して人権意識の高揚に努めていく。	地域6	A	100%	44%	56%	0%	0%
				◇ 文化祭と校区別人権・同和教育懇談会を同日開催したことについて、「内容がより充実していた」との評価があり、行事の工夫が教育効果を高めていると言える。	教職員18	A	100%	11%	89%	0%	0%
				◆ 全体的には好結果だが、一部の生徒には人権意識が希薄だったり、いじめ問題に発展してもおかしくない言動をしたりするのも事実であるため、継続して人権意識の高揚に努めていく。	生徒2,6,8	A	96%	54%	42%	4%	0%
	(3) 働き方改革の推進	・ 校務支援システム(愛サポ)やICT等を活用し、業務の効率化に努める。 ※ 教職員の8割が肯定	A	◇ すべての教職員が肯定しているため、A評価とした。愛サポの掲示板の活用や成績処理等で、連絡や情報交換において効率化が進んでいる。また、ICTを活用した授業改善やテストの実施も進んでいると実感している。	保護者12	A	92%	24%	68%	6%	2%
				◆ 今年度初めから「一中ひろば」と称する学校独自の電子掲示板を活用して、少しでも生徒に関わる時間を増やしたり、会議式の伝達手段を削減したりする取組を行っている。このまま継続して行い、教職員の負担軽減へとつなげていきたい。	地域6	A	100%	65%	35%	0%	0%
A			◇ 業務の効率化を図りながら、教育活動の質を維持・向上させる取り組みができているため、中間期に続き高評価となった。オンライン上でもICT支援員から情報提供されるので効率化が進んでいる。	教職員18	A	100%	44%	56%	0%	0%	
			◆ 二-(6)同様、業務を改善していくことで生徒と関わる時間の確保ができている。ただし、愛サポとオンライン上でつながりにくいこともあったので、町全体での改善策を整えてほしいと思う。	教職員19	A	100%	22%	78%	0%	0%	
(4) 学校行事の内容の精選	・ 新しい変化に柔軟に対応し、学校行事の内容を精選するよう努める。 ※ 教職員・生徒・保護者・地域住民の8割が肯定	A	◇ 行事内容の精選については、全体的にも10割に近い高評価を得ている。具体的な内容の変革はないが、検討段階から学校運営協議会や生徒総会等に提案として投げかけることによって、公開性が保たれていることが高評価につながっていると考えている。	教職員19	A	100%	22%	78%	0%	0%	
			◆ 今後も、学校運営協議会や関係諸機関、並びに生徒会等々、よりよい学校行事の取組に向けて、その都度協議を重ねながら、より効果的な学校行事の運営を心がけていく。	生徒13	A	95%	46%	49%	5%	0%	
		A	◇ 合同運動会と文化祭を比べると、生徒自身の企画・運営の機会の差が生じていることが中間期よりも肯定率が低くなった原因ではないかと推測される。小中合同運動会のため、難しいところではある。	保護者13	A	95%	24%	71%	5%	0%	
			◆ 生徒が主役となる学校行事や自治活動は、本校の大きな特色であり、学校全体の活力の源泉となっていると言える。今後も「共に生き合う」の教育目標のように、地域社会全体で学校運営に取り組んでいきたい。	地域7	A	100%	56%	44%	0%	0%	
			◇ 合同運動会と文化祭を比べると、生徒自身の企画・運営の機会の差が生じていることが中間期よりも肯定率が低くなった原因ではないかと推測される。小中合同運動会のため、難しいところではある。	教職員20	A	89%	11%	78%	0%	11%	
			◆ 生徒が主役となる学校行事や自治活動は、本校の大きな特色であり、学校全体の活力の源泉となっていると言える。今後も「共に生き合う」の教育目標のように、地域社会全体で学校運営に取り組んでいきたい。	生徒13	A	91%	57%	34%	9%	0%	
学校運営協議会所見	前期	・組織として団結しているかどうかは、教職員の姿形で生徒たちに示していくべきだと思う。その姿勢を見て真似していくと思う。 ・運動会の時期が、いつも台風だったり、悪天候なので、時期を再検討してはどうだろうか。	学校の対応	前期	・生徒総会で提案された校則の変更については、生徒会が中心となって建設的に意見を集約し、校則検討委員会で話し合った結果、変更を認めることとなった。このこと自体が自治的能力なのだと思生徒たちに理解させていきたい。 ・学校行事の精選については、それぞれの目的を見失わないように進めることが大切だと思う。その上で業務負担の軽減が図れる方法を見いだせばと考える。						
	後期	・生徒会がしっかりと順序をふんでより良い学校生活にしていこうと、行動を起こして実現している成功体験は、これからの人生に必ずプラスになると思う。 ・ブロック活動は、学年の壁をなくすすばらしい取組だと思うが、学年対抗の行事や企画があると、横のつながりがより深まるので、機会があってもいいのではないか。また、先生方にも参加してほしい。 ・今年度の各学校行事への参観者や来校者の数が増えている。とてもいいこと。 ・いじめの動画拡散などが連日報道されている。人権教育が大切だと感じている。		後期	・今後も、生徒が「自分たちの手で学校を変えた」という実感を持てるよう、プロセスを重視した支援を行ってきたい。 ・ブロック活動の良さを活かしつつ、同じ時間を共有する学年内の結束力を高める機会(体育的活動や文化的活動)を増やしていきたい。 ・学校ホームページ等を活用し、日々の活動や行事の様子を地域・保護者の方々にスピーディーに共有していきたい。 ・SNS等のトラブルを「自分事」として捉え、相手を思いやる想像力を養う教育を強化していきたい。						